

主 題：七つのラッパが吹かれる － 神のさばき 3

聖書箇所：ヨハネの黙示録 9章13－21節

第六の御使いがラッパを吹き鳴らします。そして、神のさばきがこの地上に下るのです。どのようなさばきが下ろうとしているのか？9：13から見ていきましょう。

A. 神のさばき 13, 14節

13－14節「:13 第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の祭壇の四隅から出る声を聞いた。:14 その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」、第六番目の御使いがラッパを吹き鳴らすと、このようなさばきが下ったということです。それは「四人の御使いが解き放される」というさばきです。そのいきさつがここに記されています。

1. 声を聞いた

ヨハネはラッパが吹き鳴らされたときにある声を聞いています。いったい、彼はだれの声を聞いたのでしょうか？恐らく、ここで言われているのは「一人の天使の声」です。なぜ、そう言えるのか？実は、ここに記されていることと非常によく似たことが8章に記されています。この13節には「神の御前にある金の祭壇」と書かれています。8：3をご覧ください。後半に「…御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。」とあります。この二つを見ると、どちらにも三つの冠詞が付いています。同じ内容です。祭壇を思い出してください。約44cm四方でした。高さが約88cmあって、その祭壇はアカシア材で作られて上に純金をかぶせると、すでに見たことです。旧約聖書出エジプト記30章に、どのようにして祭壇を作るのかを神はモーセに教えられたことが書かれています。ですから、ここで声を発したのは、8：3で「また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。」と見るように、「ひとりの御使い」が語ったのだろうと推測することができます。

2. 声の出所

「金の祭壇の四隅から出る声を」と書かれています。8章を学んだときに「祭壇」について説明しましたが、祭壇の上には四つの角が付いています。そのことをこの9：13で言っています。四隅の角の部分からというよりも祭壇の中から、その上から声が出て来たように見て取れます。

3. 声の内容

問題はその声の内容です。どのようなメッセージだったのか？「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」と、これがヨハネが聞いたメッセージでした。では、いったい、「四人の御使い」とはどんな天使たちなのでしょう？少なくとも、ここを見ると、彼らは「良い天使」、つまり、罪を犯していない天使たちではなく、罪を犯した天使、悪霊たちであるということが分かります。なぜなら、聖書のどこを見ても、良い天使たちはつながれていないからです。つながれているのは罪を犯した悪い天使です。しかも、「つながれている」ということばの時制は完了形です。すでに起こったことであり、その結果が今も継続している場合にこの時制が使われます。ですから、この四人の御使いは何をしたのかは分かりませんが、すでに、つながれていてその状態にあったのです。そして、つながれていたところは「大川ユーフラテスのほとり」であると言います。

◎ユーフラテス川は中近東において最も重要な川

今も私たちは地図上にその川を見ます。でも、それは洪水の後の地形です。洪水の前はかなり違っていたようです。

・エデンの園から流れ出る川のひとつ：洪水前の地形、創世記2章を見ると、エデンの園に泉があって、そこから四つの川が流れ出ている様子が記されています。2：10－14「:10 一つの川が、この園を潤すため、エデンから出ており、そこから分かれて、四つの源となっていた。:11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れる。そこには金があった。:12 その地の金は、良質で、また、そこにはベドラハとしまめのうもあった。:13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れる。:14 第三の川の名はティグリス。それはアシュルの東を流れる。第四の川、それはユーフラテスである。」これらの地名は不明です。これはノアの洪水が起こる前のことです。でも、今もこのユーフラテス川は存在しています。この周りではいろいろなことが起こっています。

・この川の近くで、人類最初の殺人が起こった：カインがアベルを殺したのはこの川のほとりでした。創世記4：8「しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野に

いたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。」。

・バベルの塔 : また、バベルの塔が建てられたのも実はこの辺りでした。

・ユーフラテスは約束の地の東の果て : 神がイスラエルに約束の地を与えると約束されましたが、その地の東の果てがこのユーフラテス川です。そのことは次の箇所に見ることができます。創世記 15 : 18 「その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。」、出エジプト記 23 : 31 「わたしは、あなたの領土を、葦の海からペリシテ人の海に至るまで、また、荒野からユーフラテス川に至るまでとする。それはその地に住んでいる者たちをわたしがあなたの手渡し、あなたが彼らをあなたの前から追い払うからである。」、申命記 11 : 24 「あなたがたが足の裏で踏む所は、ことごとくあなたがたのものとなる。あなたがたの領土は荒野からレバノンまで、あの川、ユーフラテス川から西の海までとなる。」。

・ダビデ、またソロモンの時代にはこの地にまでイスラエルの影響が及んだ : I 歴代誌 18 : 3 「ダビデは、ツォパの王ハダデエゼルが、ユーフラテス川流域にその勢力を確保しようと出て来たとき、ハマテに出て、彼を打った。」、II 歴代誌 9 : 26 「彼は大河からペリシテ人の地、さらには、エジプトの国境に至るすべての王を支配していた。」、

・ユーフラテス流域はイスラエルを苦しめた三つの世界勢力の中心であった : どんな帝国があるのか？ 先ず、アッシリア帝国、そして、バビロン帝国、メド・ペルシャです。

・この地においてイスラエルは70年間に及ぶ捕囚を経験した : その場所もこの辺りでした。詩篇 137 篇は捕囚に捕らわれた人が記しであろうと言われますが、内容を見ると1節に「バビロンの川のほとり、」とありますが、これがユーフラテス川です。続いて「そこで、私たちはすわり、シオンを思い出して泣いた。:2 その柳の木々に私たちは立琴を掛けた。:3 それは、私たちを捕らえ移した者たちが、そこで、私たちに歌を求め、私たちに苦しめる者たちが、興を求めて、「シオンの歌を一つ歌え」と言ったからだ。:4 私たちがどうして、異国の地にあつて【主】の歌を歌えようか。」と記されています。

ですから、ユーフラテス川のほとりにつながれていた四人の御使いたちは、どういう理由か分かりませんが、非常に重要な川の側につながれていたわけです。14節に「四人の御使い」と書かれていますが、この「御使い」の前には冠詞が付いています。それはこの御使いたちが特別な存在であったことを表わしているのでしょうか。彼らがどのような天使であったのか？ そのことは定かではありません。マッカーサー先生が言われるように、もしかすると、この四人の御使いたちは四つの大帝国、バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマを支配した悪霊たちであったのかもしれませんが。その辺りのことはみことばは私たちにはつきりとは教えていません。ただ、このユーフラテス川のほとりにつながれていた四人の特別な天使たち、悪霊たちに、第六のラツパが鳴ったときにどんなさばきが下ったのか？ この四人の御使いたちが解放されるのです。それが「神のさばき」です。

B. その結果 15-19節

四人の御使いたちが解放された後、どのような災いが及ぶのか？ そのことが15-19節に記されています。

1. 大量虐殺 15節

「すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。」、大量虐殺が行われるということです。この四人の御使いが自由にされたら「人類の三分の一が殺される」と言います。「人類が殺される」ということはこれまでも出て来ました。6章に第四の封印が解かれたときに人類の四分の一が殺されるということが、6:8に書かれていました。そして、今度は第六のラツパが吹かれるときに、残った人類の三分の一が殺されるのです。これによっていったいどれだけの人たちが殺されるのでしょうか？ 現在、世界の人口は72億を少し超えています。この二つのさばきによって殺される人々は全人口の約半分、36億人です。今、私たちが見ているこの患難時代は今現在ではありません。主イエス・キリストがクリスチャンたちを迎えに来てくださった、その空中擧が起きた後の7年間です。このわずか7年間に36億もの人々が殺されるのです。考えられないような数です。恐らく、至る所に死体が転がっているような状況でしょう。

この15節にある「定められた時、日、月、年」ということばに注目してください。「…のために用意されていた四人の御使いが、」と大変なことが教えられています。先ず言えることは、神は時を定めておられたということです。このことに関して、J・ワルブード師は19世紀の英国の神学者であるアルフォード師の教えを引用して次のように説明しています。「定められた年の、定められた月の、定められた日の、定められた時間にこのことが起こる。」と。つまり、その年もその月もその日もその時間も、すべて神の御手のうちにあるということです。神の前には偶然はないということです。このようなときがいつ起こるのか？ それはすべて神の御手のうちにあり、神のご計画に基づいてすべてのことが起こるのです。

それが聖書が教える神です。ご自分の完全なご計画に従って完全なことを為されるのです。しかも、

そのためにこの四人の悪霊たちが備えられていたということは、神は悪霊たちをも使って神のみわざを為されるのです。彼らは喜んで出て行きます。なぜなら、悪霊たちが望んでいることは人類を苦しめることだからです。出て行って殺すことを彼らは喜んでします。ですから、この15節を見ると、すべての出来事の主権者は神だということを教えています。神はどこかにいて地上で起こっていることを地団太踏みながら見ているのではありません。神はすべてもののものの支配者、主権者です。人間の罪をも用いて神は自身の栄光を現わされます。それが私たちがこの聖書を通して教えられる「神」です。

大量虐殺ということを見ましたが、それがどのようにして為されるのか？次をご覧ください。

2. 騎兵と馬 16-19節

16節に「騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。」とあります。人類の三分の一が殺される出来事に関与するのが二億の騎兵であると教えます。「騎兵の軍勢」と書かれていますが、「軍勢」という名詞は複数です。でも、「騎兵」という名詞は単数です。ですから、こういうことを言っているのでしょうか？たくさんの騎兵がいたが集合体なので「一つの騎兵」です。ところが、そこにいくつかの軍勢、軍勢とは軍隊とも言いますが、それがいる、だから、複数なのです。もしかすると、四人の御使いたちがその軍勢をリードするので、四つの軍隊があったのかもしれませんが。彼らは人間を殺すために出て行くのです。この箇所を見て私たちが気づくことは、この二億の騎兵の数ですが、彼らはいったいだれなのか？ということなのです。

彼らは人間なのか？それともそうではないのか？実は、70年代に「これは人間である」という教えが広がりました。その根拠になっているのが、黙示録16:12を見てください。「第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。」、「日の出るほうから」とは「東」です。東の方から来る「王たち」と書かれているので、これは「ある東の国の王たちが来る」こと、恐らく、その王たちがこの二億の騎兵たちを連れて来ると、だから、この「二億の騎兵」とは人間だと言うのです。

しかし、この箇所を見ると、二億の騎兵が人間であったということは記されていません。どちらかと言うと、そうでないように記されています。これから説明します。

◎騎兵の正体は？

1) 騎兵 : 17節に「私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの様子はこうであった。」とあり、「それに乗る人たち」、騎兵たちのことをこれからヨハネは語ってくれます。ヨハネは幻で見えています。これはヨハネの「夢」ではないのです。「…騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、」と言います。

騎兵の胸当ての色

馬に乗っていた騎兵たちはこのような色の胸当て、鎧ですが、を着けていたのです。

(1) 火のような赤 :

(2) くすぶった青 : このように訳されていますが、ここで使われていることばは「ヒヤシンス」です。花です。だから、ヒヤシンスの青色です。

(3) 燃える硫黄の色 : 黄色味を帯びた色です。

聖書はこれらの素材が何であるかは教えていません。ただ、これは、彼らによってもたらされる災いを読者たちに連想させます。実は、この色に関してバークレーはこのように言っています。「この胸当ては、燃え盛る炉のように赤く、火から立ち上る煙のように青く、地獄の淵から流れ出る硫黄のように黄色である。大変な災いが訪れる。この色はそのことを表わしている。」と。マッカーサー先生も「これらは地獄の特色であり、地獄そのものの色である。そして、それらはこれらの悪霊たちによって、罪深い世界に注ぎ出される神の怒りの恐ろしい絵を描いている。」と言います。

ですから、神のさばきのことです。神がどんなに恐ろしいさばきをこの世にもたらすのか？まさに、地獄の色のようなと、色をもってこれから起こる災いを説明するのです。

2) 馬 : 17節の後半に「馬の頭は、獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄とが出ていた。」とあります。ここで言われている馬は私たちが見るあのきれいな馬でないことは確かです。「馬の頭は、獅子の頭のように、」、つまり、ライオンの頭のように、「口からは火と煙と硫黄とが出ていた。」と、こんな馬はどこにもいません。ですから、これは実際の馬ではありません。「馬のような」存在です。すでに、私たちはヨハネが何度も「~のような」と記して説明しているところを見て来ました。

つまり、ヨハネは自分が見た真実を読者たちに一生懸命伝えようとするのですが、読者たちが分かるたとえを用いて説明しようとしています。ここでも彼は「馬の頭は、獅子の頭のように、」と言います。いったい、これは何のことを言っているのか？馬でなければいったい何なのでしょう？これは「悪霊たち」のことです。ライオンというと、激しく、容赦なく、決然として獲物に近づいていきます。獲物を殺します。まさに、この存在もそのようにして人類を殺すということです。その殺す手段として「口からは

火と煙と硫黄とが出ていた。」と、この三つの災いをもって三分の一の人類を殺すと言うのです。

(1) 火 : 火をもって多くの人たちが焼き殺されるのでしょう。

(2) 煙 : 何かの形で煙によって多くの人たちが窒息死する。今も火事の現場では煙に巻かれて人は死んでしまいます。

(3) 硫黄 : 硫黄が燃えると、二酸化硫黄や硫化水素などの有毒ガスが発生します。恐らく、それによって多くの人たちが亡くなるのでしょう。

18節に「これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。」と書かれています。

続けて見てください。19節には「馬の力はその口とその尾とにあって、その尾は蛇のようであり、それに頭があって、その頭で害を加えるのである。」とあります。ヨハネはきっと苦労したのでしょう。一生懸命その情景を説明しようとしています。これは悪霊たちの描写です。「頭はライオンのようであり、尾っぽは蛇のようだ」と、どちらも人を殺すことができます。ライオンは一瞬のうちに食い殺すことができます。毒蛇はその毒で人を殺すことができます。悪霊たちは特別な力によって人を殺すと、ヨハネはここでそのことを伝えているのです。そのために彼らは解き放されるからです。

私たちは、第五のラッパが吹き鳴らされたときの様子を9章の初めに見ましたが、「さそりによる痛み」を経験するとヨハネは教えていました。でも、この第六のラッパが吹かれると、それ以上の激しい災いが人々の上を下るのです。かつてなかった災い、神のさばきが人類に及ぶということです。そのことをヨハネは読者たちが理解できる方法によって伝えたのです。第六のラッパが吹き鳴らされると、ユーフラテス川のほとりにつながれていた四人の悪霊たちが、そこから解き放たれて、二億の騎兵＝悪霊たちを使って地上の三分の一の人々を殺す、このさばきが下ると言うのです。

C. 未信者の反応 20, 21節

その後、20-21節には、主イエス・キリストを信じていない人たちの反応が書かれています。今、私たちが見て来た神のさばき、人類の三分の一が殺されてしまうというさばき、ご存じの通り、この災いが及ぶのは主イエス・キリストを受け入れていない人たちにだけです。もう、額に神の印が押されている人たちは、この災いには遭わないのです。このときはまだ生きています。でも、神が彼らをお守りになるのです。残った三分の二の人たちはどうなるのでしょうか？20、21節を見てください。「:20 これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、:21 その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。」、これが残った三分の二の人たちがやっていることです。

1. 罪人の頑なな心

彼らはこのような災いを経験しながらも、なお、神の前に逆らい続けていくと言うのです。信じられないことです。いい加減に目を覚ましたら！と思います。罪人の心がいかに頑なであるか…。私たち信仰者も忘れてはいけません。私たちの心も実はこのように頑なだったのです。では、なぜ、私たちは今救われているのか？神が私たちの頑なな心を砕いてくださったからです。神ご自身が私たちを救いへと招いてくださったのです。彼らは私たちと別の次元に生きている人たちのことではありません。かつての私たちもこうだったのです。神が働いてくださったから、私たちはやっと神の真理を理解することができたのです。人間の愚かさ、頑なさがここに記されています。

多くの災いを経験していながら、人々はなおも神に逆らい続けているのです。どの時代でも、どの国でも、人間は同じです。イエスがおられたときのことを思い出してください。彼らはイエス・キリストを目の当たりにしたのです。主イエス・キリストの御声を聞いたのです。イエスから直接教えを受けたのです。イエス・キリストのすばらしい奇蹟のみわざを見たのです。だから、みな心を開いたのか？イエスが十字架に架かったときにはみな逃げてしまいました。もちろん、みなが救われていなかったという意味ではありません。しかし、主イエスがおられたときも、どれだけの人たちがイエスを歓迎したのか？彼らはイエスの教えを直接聞いても、イエスの奇蹟を見ても、イエスの御姿を見ても、信じませんでした。却って、彼らは「イエスは悪霊の力によってこのようなわざを為している」と言って逆らい続けたのです。患難時代の終わりでも同じだと言います。人々の心は頑なだと。

箴言28:14に「幸いなことよ。いつも主を恐れている人は。しかし心をかたくなにする人はわざわいに陥る。」とあります。ヘブル書3:15に「きょう、もし御声を聞かなば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と書かれているからです。」と、4:7にも同じことが記されています。「神は再びある日を「きょう」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、「きょう、もし御声を聞かなば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」と語られたのです。」と。

2. 罪人の罪深さ

罪人の罪深さも見てください。様々な災いにも滅びなかった、いのちを落とすことがなかった人類の

三分の二、彼らはまだこの時代にあっても罪を犯すと、五つの罪が挙げられています。

1) **偶像礼拝を継続する** : 彼らはこのような中にあっても偶像礼拝を行ない続けると言います。20節に「その手のわざを悔い改めないで、」とあります。「悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、」と、偶像は人の手のわざだからです。人間が作ったものです。彼らはなおもそれを拝み続けると言います。皆さん、偶像礼拝は私たちはみなやって来ました。私たちの国はそれに溢れています。先祖を崇拜したり、人間の作った様々なものを崇拜する…。実は、偶像礼拝はすべて悪霊を崇拜していることだにご存じですか？私たちの先祖を崇拜することも、それは悪霊を崇拜していること、サタンを崇拜していることになるのです。そのことを聖書は私たちに教えています。申命記の中に、人々が偶像にいけにえをささげたときに、このように記されている箇所があります。32：16、17「:16 彼らは異なる神々で、主のねたみを引き起こし、忌みきらうべきことで、主の怒りを燃えさせた。:17 神ではない悪霊どもに、彼らはいけにえをささげた。それらは彼らの知らなかった神々、近ごろ出てきた新しい神々、先祖が恐れもしなかった神々だ。」、彼らは偶像にいけにえをささげましたが、みことばが言うのは「悪霊どもに…いけにえをささげた。」です。

見ていただきたいのは詩篇96：5です。「まことに、国々の民の神々はみな、むなしい。しかし【主】は天をお造りになった。」、この「むなしい」ということばを見てください。確かに、このことばは「不足をしている、不十分である、無価値、無能、役に立たない」という意味をもっています。この箇所を70人訳（ヘブライ語をギリシャ語に訳したもの）で見ると、「異教徒のすべての神々は悪霊たちである。しかし、主は天を造られた。」となっています。新改訳聖書では「むなしい」と訳していますが、70人訳では「悪霊たち」と訳しているのです。

実は、70人訳ではこの箇所だけでなく、イザヤ書65：11にも「悪霊たち」ということばを使っています。「しかし、あなたがた、【主】を捨てる者、わたしの聖なる山を忘れる者、ガドのために食卓を整える者、メニのために、混ぜ合わせた酒を盛る者たちよ。」と、ここに「ガド」「メニ」ということばがあります。「ガド」とはシリアの神のこと、つまり、偶像です。「ガド」はヘブライ語ですが、その意味は「幸運、富」です。ですから、幸運や富をもたらす神なのです。70人訳は「ガド」と言わないで「悪霊」となっています。ですから、一貫していることは、偶像というのはすべて悪霊だということです。また、「メニ」は運命という意味です。

詩篇106：34-38を見てください。ここにはイスラエルの偶像崇拜が記されています。見ていただきたいのは、偶像崇拜と悪霊との密接な関係です。「:34 彼らは、【主】が命じたのに、国々の民を滅ぼさず、:35 かえって、異邦の民と交わり、そのならわしにならい、:36 その偶像に仕えた。それが彼らに、わなであった。:37 彼らは自分たちの息子、娘を悪霊のいけにえとしてささげ、:38 罪のない血を流した。カナンの偶像のいけにえにした彼らの息子、娘の血。こうしてその国土は血で汚された。」、彼らは偶像に仕え、偶像崇拜をし、自分たちの子どもたちを偶像のいけにえとしてささげたのです。それは実は「悪霊にささげた」とみことばは言います。

この教えは新約聖書にも書かれています。ささげものについて、1コリント8：4「そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。」、ここでパウロは「偶像とって、確かに、神と名の付くものはいっぱいあるが、それは神ではない。神は一人しかいない。」と言うのです。

1コリント10：19、20「:19 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像の神にささげた肉に、何か意味があるとか、偶像の神に真実な意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。:20 いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。」、パウロはこうして偶像にささげるもの、それが肉であろうと何であろうと、実は、それは悪霊にささげていると言っているのです。

ガラテヤ4：3、9「:3 私たちもそれと同じで、まだ小さかった時には、この世の幼稚な教えの下に奴隷となっていました。」「:9 ところが、今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうしてあの無力、無価値の幼稚な教えに逆戻りして、再び新たにその奴隷になろうとするのですか。」

コロサイ2：20「もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのように、」

ですから、こうして聖書は私たちに「偶像崇拜はすべて悪霊を崇拜することだ」と教えます。この患難時代にあって、大患難時代に大変な災いが起こりました。その中でも人々は、すべてを造られた唯一真の神に心を開くことなく、却って、これまで拝み続けて来た神でないものに手を合わせ、悪霊を崇拜し続けると言うのです。

2) **殺人** : 二つ目の彼らの罪は「殺人」と21節に書かれています。「その殺人や、…」、サタンや

悪霊を崇拝している人たちは当然、彼らの影響を受けています。彼らにとって殺人は大きなことではありません。しかも、この時は大変苦しい時代です。太陽の光は三分の一になるから暗くなって熱も届きません。そうすると、間違いなく、気象の変動によって農作物に影響が及びます。食糧難になるので、何とかして自分の食料を確保しようとして、ときには殺人によって、ときには盗みをして必要なものを得ます。この時代に人々はそのようなことを選択するということです。

イエスはこのように言われました。ヨハネ8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」と。どういう意味か？説明します。アダムとエバが罪を犯しました。サタンが誘惑しました。その結果、人類に「死」が入りました。そして、彼らの子どもであったカインとアベルに「殺人」が起こりました。それまではそういうことはありませんでした。サタンの影響を受けることによってそのようなことが起こるのです。サタンは私たちの幸せなど微塵たりとも考えていません。ここにおられるイエス・キリストを信じておられない方、救いに与っていない方々、サタンはあなたの永遠が天国で過ごせるかなど考えません。あなたが永遠のいのちをいただいて喜びと感謝をもって生きること、サタンはそんなことなど全く望んでいません。却って、神に逆らい続けているあなたが彼らとともに滅びることを望んでいるのです。

ですから、この捕えられていた四人の悪霊たちは出て来て、彼らは喜んで人類を殺します。彼らの父であるサタンの性質を受け継いで彼らもそのように生きるのです。

3) 魔術 : 実は、「魔術」と訳されているギリシャ語は、「薬局、薬学、薬剤」という英語 Pharmacy の由来となることばです。ファーマコンというギリシャ語です。そこからファーマシーが出て来たのです。このことばは「薬」以外に「毒」という意味も持ちます。特別な効き目や魔力をもつ飲み薬であったり、悪霊の力を借りた魔法であったり、首にかけるお守り、魔除け、霊媒を介して死者と交信をする、呪文、まじない、魔術をかけるなど、このようなことがすべて含まれるのです。

つまり、終わりの時代になっても人々は神に対して関心を示すのではなく、悪霊のこのようなことに関心を示すのです。今でもそうです。なぜ、多くに人たちは占いや運勢に関心をもちのでしょうか？テレビを見ても雑誌を見ても、どんなところにもそれらが溢れています。みなの中に関心があるからです。私たちクリスチャンが知らなければいけないのは、そのようなものの背後にあるのは悪霊だということです。それらのどこにも神を喜ばせるものはありません。この患難時代の終わりになって、人々は何に関心を示すのか？以前と同じです。悪霊の働きに関心をもちます。今も社会全体が人々がこの悪霊の影響を受けています。この時代も同じだと言います。

4) 不品行 : 「ポルネイア」というギリシャ語が使われていて、このことばから英語の「ポルノ」ということばが出て来ています。ですから、終わりの時代に人々は神に立ち返るところか、益々性的罪に溺れていくということです。今、私たちが目の当たりにしていることは、アメリカで同性愛同志の結婚が合法化されたということです。日本でもそのようなカップルがマスコミに登場するようになりました。彼らは「医学的にそのように生まれついたので。」と言います。聖書は言います。「それらはすべて罪です。」と。どうして、神はあのソドムとゴモラを滅ぼしたのか？その理由の一つは同性愛です。同性愛が蔓延していたのです。創世記19：1-13「:1 そのふたりの御使いは夕暮れにソドムに着いた。ロトはソドムの門のところすわっていた。ロトは彼らを見るなり、立ち上がって彼らを迎え、顔を地につけて伏し拝んだ。:2 そして言った。「さあ、ご主人。どうか、あなたがたのしもべの家に立ち寄り、足を洗って、お泊まりください。そして、朝早く旅を続けてください。」すると彼らは言った。「いや、わたしたちは広場に泊まろう。」:3 しかし、彼がしきりに勧めたので、彼らは彼のところに向かい、彼の家の中に入った。ロトは彼らのためにごちそうを作り、パン種を入れないパンを焼いた。こうして彼らは食事をした。:4 彼らが床につかないうちに、町の者たち、ソドムの人々が、若い者から年寄りまで、すべての人が、町の隅々から来て、その家を取り囲んだ。:5 そしてロトに向かって叫んで言った。「今夜おまえのところやって来た男たちはどこにいるのか。ここに連れ出せ。彼らをよく知りたいのだ。」:6 ロトは戸口にいる彼らのところに出て、うしろの戸をしめた。:7 そして言った。「兄弟たちよ。どうか悪いことはしないでください。:8 お願いですから。私にはまだ男を知らないふたりの娘があります。娘たちをみなの前に連れて来ますから、あなたがたの好きなようにしてください。ただ、あの人たちには何もしないでください。あの人たちは私の屋根の下に身を寄せたのですから。」:9 しかし彼らは言った。「引っ込んでいろ。」そしてまた言った。「こいつはよそ者として来たくせに、さばきつかさのようにふるまっている。さあ、おまえを、あいつらよりもひどいめに会わせてやろう。」彼らはロトのからだを激しく押しつけ、戸を破ろうと近づいて来た。:10 すると、あの人たちが手を差し伸べて、ロトを自分たちのいる家の中に連れ込んで、戸をしめた。:11 家の戸口にいた者たちは、小さい者も大きい者もみな、目つぶしをくらったので、彼らは戸口を見つけるのに疲れ果てた。:12 ふたりはロトに言った。「ほかにあなたの身内の者がここにありますか。」

あなたの婿やあなたの息子、娘、あるいはこの町にいるあなたの身内の者をみな、この場所から連れ出しなさい。:13 わたしたちはこの場所を滅ぼそうとしているからです。彼らに対する叫びが【主】の前で大きくなったので、【主】はこの町を滅ぼすために、わたしたちを遣わされたのです。」

レビ記 18 : 22 「あなたは女と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである。」

レビ記 20 : 13 「男がもし、女と寝るように男と寝るなら、ふたりは忌みきらうべきことをしたのである。彼らは必ず殺されなければならない。その血の責任は彼らにある。」

今、世界的にそのような状態になりつつあります。彼らにも当然救いが必要です。聖書が言うことは、そのような生き方は明らかに罪の生き方だということです。ローマ書 1 章がそのことを私たちに警告しています。ローマ 1 : 26-27 「:26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、:27 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうして情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行うようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。」I コリント 6 : 9でもその通りです。「あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、」

人間とはいかに愚かなのか？このような大変な災いの中、神のさばきの絶頂を迎えようとしているその時でも、人々は赦しを与えてくださる神を求めるのではなく、快樂を求めて生き続けていると言うのです。

5) 盗み : 最後に「盗み」が出て来ます。先に説明したように、食料が不足すると、人々は何としても自分が生きていくために必要な生活の必需品を確保しようとします。そのときに、様々な盗みが生じると言うのです。

大変悲しい現実がここに記されています。大患難の時代にこのようなことが地上で起こると。そして、それに対して、多くの人たちは益々心を頑なにし、そして、自分の思いのままに、快樂を求めて生きると。大変辛い記事が記されていました。でも、皆さん、神が敢えてこの事実を私たちに知らしめてくださったということは、どの時代であっても、私たちがすべきことは決まっているということです。患難時代にあっても、この時代に生きているクリスチャンたちはその中で福音を語り続けていきます。それは後に出て来ます。今の時代でも、私たちがすることは同じです。私たち信仰者に神が望んでおられることは変わらないのです。この神のすばらしい救いを宣べ伝え続けていくことです。それがどの時代であっても私たち信仰者に与えられた神からの命令です。

どうぞ、それをしっかり果たしてください、皆さん。それがこの終わりの時に備えをもって生きる生き方です。もちろん、2000年前も人々はそのようにして生きました。彼らはもう終わりが来ることを信じていたからです。それがもっと近づいていることを知っている私たちはもっとそのことに熱心であることです。このようなことがこの後起こると知った以上、私たちには今しなければいけないことがあります。赦しを与えてくれる神のことを伝えることです。どのようにして私たちが罪赦されて生まれ変わることができるのか？その福音のメッセージを語ることです。どうぞ、その務めをこの1週間しっかり果たしてください。それが神が私たちひとり一人に求めておられることです。その働き人としてこの1週間もそれぞれのところに出て行ってください。

《考えましょう》

1. 二億の軍隊について説明してください。
2. 「馬」について説明してください。
3. 「偶像崇拜」がどうしてサタンや悪霊を礼拝することになるのかを説明してください。
4. 「殺されずに生き残った未信者」が行う五つの罪を挙げてください。